

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室きらり大阪狭山金剛校		
○保護者評価実施期間	2024年12月15日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2024年12月15日		～ 2024年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全職員がすべての児童の支援を行うことができる。また、状況を見て行動することができる。	支援内容の共有を意識し、次の支援へとつなげている。また、利用者様や初めて来所される児童・保護者様、関係機関の迎え・見送りを全員で行っている。	報告・連絡・相談等を行うなど、職員同士のコミュニケーションの機会を高めていく。
2	児童や保護者様に寄り添った関わりを持つことで信頼を得ている。	振り返りの時間を大切に、保護者様の相談援助・家族支援などを行い、次の支援内容へつなげたりしている。	定期的に支援見学をしていただく機会を作り、振り返りや家族支援等へつなげていく。
3	多様な支援プログラムを提供することができる。	児童一人ひとりを多角的な視点で分析し、アプローチを行うことで、個々に応じた支援内容を提供している。	各指導員の支援ツールや方法を共有する機会を設け、支援内容の充実・質をアップさせていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様への危機管理（防災・感染など）に関する周知	実施予定・実施の様子などを周知ができていない。	教室内への掲示やHP等を使い実施の様子の周知や参加の案内を行っていく
2	ペアレントトレーニング・保護者様へのサポート	送迎時に一旦事業所を出られる方が多く、保護者様に直接支援を見てもらう機会が作れていない。	支援見学週間などを定期的に設け、直接支援を見てもらいながら、お子様との関わり方のヒントを見つけていただく機会を作る
3	地域資源の活用があまりできていない。	活用方法などが見いだせないため。機会を作れていない。	アンテナを張り地域行事などの情報を取得し、ご利用者様へ発信していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室きらり大阪狭山金剛校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 53

回収数 37

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28	8	0	1	・利用者の数が多いと相談室が使えない時があるため。(①) ・限られたスペースを上手に活用されている。(②) ・工夫されている。(②) ・個別に区切ってもらい安心している。(②) ・勉強用のスペースとしては確保されているが、活動となると狭い気がする。(③)	①振返りの方法を工夫(支援内容や児童の様子などの伝え方・保護者様にお話しを聞く際の切り出し方など)し、限られた時間内でできるようにしていく。 ②今後も児童の安全面等に配慮しながら環境設定を行っていく。 ③追①空いているスペースを活用したり、内容の順番の変更や限られたスペースで行える内容を考えていく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	32	3	0	2	・余裕が出てきて安心できる。(③)	③児童一人ひとりに全職員で関わっていただけるようにしていく。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	7	0	4	・トイレはスリッパの位置などを分かりやすくしてくれている。(④)	④今後も初めて来所の方でも一目でわかるような環境作りを行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	3	0	1	⑤	⑤定期的に掃除や消毒を行い清潔な空間作りを行っていく。また、保護者様に支援の様子を見てもらう機会を設けていき、実感してもらえるようにしていく。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	1	0	0	・相談しやすい雰囲気、気軽に話せている。(⑥)	⑥今後も保護者様のご要望やご相談しやすい雰囲気づくりを心掛けていく
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	0	0	3	⑦	⑦保護者様のニーズやお子様のご成長などを共有しつつ、より良い支援を心掛けていく
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	36	1	0	0	⑧	⑧ご利用者様に支援の狙いなどを分かりやすく提示していく。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32	2	0	3	⑨	⑨今後も児童だけでなく保護者様やご家族に寄り添った支援を心掛け、地域との連携を図り、多くの目でお子様を見守っていく。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36	0	0	1	⑩	⑩今後も計画に準じて支援を行う中で、お子様のご成長や保護者様のニーズの変化により半年に1回見直しをしていく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	36	1	0	0	・いつも色々な内容で有難い。(⑪) ・その都度、クラス(学校)で困ったことを見てもらっている。(⑫)	⑪お子様のご成長や保護者様のニーズに合わせ、随時支援内容を工夫していく。 ⑫学校等の様子等も鑑み、より近い環境で支援できるように心掛ける。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6	6	7	18	・今の支援に満足している。(⑬)	⑬「きらり」だけでなく多くの関係機関でお子様を見守れるような方法を考えていく。 ※小集団・イベントを通して他児との関わりを持つ機会を作っていく。※地域イベント等のチラシを教室内に掲示して地域交流の機会を作っていく。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	35	2	0	0	⑭	⑭今後も面談・体験・契約時の説明から内容の変化があった際に説明ができるように心掛けていく。また、保護者様が手に取って見れるようにするなど環境を整えていく。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37	0	0	0	⑮	⑮引き続き説明を行っていく。

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	6	4	10	・時々あるようだが、未参加。(⑩)	⑩保護者様同士のつながりを持てるような会を提供できるように方法を考えていく。また、引き続き振り返り等を使いご家庭でのお子様との関わり方について一緒に考えていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	36	0	0	1	⑪	⑪欠席時の体調確認を行っていくと共に、ご家庭や学校での児童の変化等についても共有を図っていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	5	0	3	・悩みがあればすぐに相談できている。(⑫)	⑫今後も振り返りなどを使い保護者様のご相談を受けられるように心がける。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	37	0	0	0	・すぐく支えられている。(⑬)	⑬保護者様の思い等に寄り添いながら、お子様のご成長について共有していく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	7	9	7	14	・参加したことが無いため、そのような機会があるのかが分からない(⑭) ・以前は工作イベントがあったが、最近では実施されておらず参加が難しい。(⑮)	⑭イベントを実施する中で、保護者様同士が繋がれるような会も同時に開催するなどしていく。また、時間や内容についても早めに案内できるようにしていく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33	0	0	4	⑯	⑯今後も振り返りの際にお聞きしたご相談等について、他の職員とも共有し解決策を考えるなどしていく。またどの職員でも相談していただけるような体制を整えていく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37	0	0	0	⑰	⑰今後も支援や振り返りの中で思いや考えをお聞きするなどしていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	23	6	0	8	⑱	⑱今後もイベントの様子や空き状況など、情報提供を定期的に行っていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	36	1	0	0	⑲	⑲今後も個人情報の保管を行い、情報漏洩のないように努めていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	8	1	8	・そのような機会があったことがないため分からない。(⑳)	⑳保護者様が見てわかるような提示方法を考える。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	7	3	11	・そのような機会があったことがないため分からない。(㉑) ・訓練をしたほうが良いと思う。(㉒)	㉑保護者様が見てわかるような提示方法を考える。 ㉒定期的に行えるように心掛け、保護者様や児童へも参加してもらうなど実施できるように心掛けていく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	5	1	8	・そのような機会があったことがないため分からない。(㉓)	㉓保護者様が見てわかるような提示方法を考える。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	5	1	6	・そのような機会があったことがないため分からない。(㉔)	㉔保護者様が見てわかるような提示方法を考える。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	37	0	0	0	・とても安心できる場所。(㉕)	㉕今後も安心して通っていただけるように安全面・衛生面などを保てるようにしていく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	37	0	0	0	・「きらり」で勉強すれば大丈夫だと思っている。(㉖)	㉖今後も児童が行きたいと思ってもらえるように支援内容や環境を整えていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	36	1	0	0	・いつも細やかな支援に感謝している。(㉗) ・振替も対応してくれているので有難い。(㉘) ・親子で楽しく通っている。(㉙) ・機嫌が悪くても通所後は落ち着いている事が多く、感謝している(㉚)	㉗今後も保護者様のニーズ等もお聞きしながら支援へと反映していく。 ㉘引き続き振替・追加について具体的な日時を提案するなど保護者様が選択しやすいように子悪露がける。 ㉙引き続き「きらり」が保護者様やお子様にとって安心出来る場になるように心掛ける。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室きらり大阪狭山金剛校			公表日	2025年 2月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		・去年に比べると職員の人数が増えたことで、必ず一人は空きの職員が居る状況の中で、振り返りの際にお子さんと遊んだり一人にならないように気を配っている。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		・不要な段差はあるが、環境上の配慮は可能な限りしている。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		・少し狭さは感じる部分もあると思うが、心地よく過ごせるよう毎日掃除や消毒を行っている。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		・完全に個別の部屋ではないが、お子様からの発信があったり、必要に応じても振り返りの部屋などを使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・話し合いから振り返りまで、こまめに情報共有を行い何か改善できることがあれば、みんなで考えている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・評価表のみならず、日々の振り返り等でご要望は聞いており、可能な限り答えられるよう職員共有している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・意見を活発に交流している訳ではないが、情報共有の時間を設けたり、何か改善できることがあれば、みんなで考えている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			・教室内での周知がしっかりと出来ていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・毎月定期的に研修があり、毎回受講できている訳ではないが、必要な研修を受けるとも勉強になっている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			・公表に向けて作成を進めていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・職員全員でお子様に関わり、多角的にアセスメントしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・モニタリング時だけでなく、普段からすべてのお子様について情報共有している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			・標準化されたフォーマルなツールが周知されていない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・初めて支援担当する時や、一人ひとりのお子様の情報共有をごまめにするなど、必要に応じて、お子様に合わせた固定のプログラムを考えたり、小集団の内容を考えたりしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・担当制ではないため、お子様の特性を踏まえ、多様なアプローチ方法で支援を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・明記できていないかもしれないが、必要のあるお子様へは、小集団の声掛けを行い参加してもらうようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎日ではないが、ごまめな打ち合わせをタイミングを見て行い、抜け目がないようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・当日中ではないが、翌日には共有できるように情報共有の時間を設けたり、共有スペースへ上げるなどしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・担当制ではないため、誰が読んでも分かりやすいように記録し、記録を基に次の支援を組み立てている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・職員全員でお子様に関わり、多角的にアセスメントを行い、多様なアプローチ方法で支援を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・複数の活動を用意し、「どれがいいか」選択できる内容を組み込んだり、お子様の「○○したり」という発信に耳を傾けるなどしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・担当制ではないが、頻繁に該当のお子様の支援を行っている指導員が参画するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・保育・教育等の関係機関とは、いつでもつながれるよう定期的に市の集会には参加している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			・送迎が無いため定期的な情報共有等は行っていないが、必要に応じて行ったり、保護者様より行事や必要な情報についてお伺いしている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・直接対面することは少なく少ないが、相談支援事業所を通じて情報共有している。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			・提供する機会が作れていないが、機会があれば参画していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・市の集会・研修にて助言や専門的なお話を聞く機会を設けていた。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・地域のお子様との交流の機会を設けることが難しく、中々活動出来ていないが、利用者同士で交流する機会を設けている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			・参加する機会が作れていないが、機会があれば参画していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			・研修などは行っていないが、チラシを掲示したり、支援の振り返り時に、ご家庭でも行えるようなことを助言をすることはある。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・振り返りの際などに悩みなどをお伺いし、相談に応じている。内容によっては、一旦持ち返って職員間で共有してからお話をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		・お知り合い同士の保護さんは、よく話されているが、場の設定を「きらり」として持っていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・ホームページやLINEをメインに行事の発信や空き状況、イベントの様子などを発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・主体となって地域への周知活動を行っていない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			・マニュアルはあるが、積極的に周知できていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・特に、てんかんのお子様については別紙で可視化している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			・安全確保は細やかにやっているが、書面で丁寧に周知できていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			